

『はなの病気』



青い鳥医療福祉センター 診療部長 別府 玲子 (耳鼻咽喉科)

今回から、鼻の病気についてお話しますが、病気に入る前に、鼻の構造・機能について説明します。鼻の中は鼻腔と呼ばれ、鼻中隔という仕切りで左右にわかれています。鼻腔は顔の中の骨の洞穴である副鼻腔と交通しています。以前『蓄膿』と呼ばれていたものは、この副鼻腔に感染がおり、慢性化したもののことです。鼻の役割は口とともに空気のとおり道であり、鼻の中で、空気の温度と湿度を調整し、鼻粘膜の線毛上皮の働きで、外界からの細菌やほこりなどが体内に侵入するのを防いでいます。そしてもうひとつ重要な役割は、においを感じる場所であることです。このため、鼻の病気になると勢い、匂いを感じなくなることがあります。

さて、風邪を引けば急性鼻炎になりますし、アレルギーが起こればアレルギー性鼻炎を発症します。今回はこのアレルギー性鼻炎についてお話します。

アレルギー性鼻炎は、花粉などが抗原で起こる季節性のものと、ダニ、ハウスダストなどで起こる通年性のものがあります。「アレルギー性鼻炎がありますか？」とお聞きすると、「アレルギーはありませんが花粉症です。」と言われる方が見えますが、一般に花粉症と言われているものは、季節性アレルギー性鼻炎のことなのです。

では、アレルギー性鼻炎かなと思ったら、まず医師の正しい診断を受けましょう。問診、鼻鏡検査（鼻の中を見る検査）、鼻汁好酸球検査（アレルギー反応が著明になると鼻水の中に好酸球がでてきます）、血液検査を行い、現在からだのなかで起こっているアレルギーの状態を確かめます。花粉症の場合はスギだけでは

無いのでほかの花粉（ヒノキ、ハルガヤ、カモガヤ、ブタクサ、ヨモギなど）の検索もしておきましょう。春先はスギ、ヒノキ、4月から初夏にかけてはイネ科のハルガヤ、カモガヤなど、秋はブタクサ、ヨモギなどが飛散します。ダニやハウスダストでおこるものは通年性アレルギー性鼻炎と呼ばれ、一年中抗原を体内に吸い込めば症状が出る場合があります。

対策はまず自分自身でできることとしては、抗原を避けることです。ほこりやダニを避け、花粉症の場合は、花粉情報に注意して、花粉が多く飛散する日は外出を控え、外出時には、マスク、めがねを着用するなどの注意を払うことが必要です。

治療は、薬を飲んだり、点鼻薬を使用する機会が多く、現在、多くの抗アレルギー薬があります。個々の患者さんで、病型（くしゃみ・鼻漏型、鼻閉型、すべての症状がある充全型）や、症状の強さが違うため、個人個人にあう薬の内服や点鼻薬が必要になります。薬の使用以外にも、免疫療法や、最近では特に鼻づまりの強い方に対して、レーザー治療も行われています。眼のかゆみなどの眼症状には、アレルギー性結膜炎用の点眼薬を使用しますが、他の眼の病気の合併などがある場合は特に眼科を受診しましょう。『注射一本でなおる。』とか『簡単に治せます。』などの情報や民間療法などもありますが、まず一度耳鼻咽喉科医に相談することが必要です。



「放射線に関して」

放射線科 杉原 賢一

X線検査の際、利用者の方々に対して、思いやりの気持ちを大切に苦痛なくリラックスでき、スムーズにX線検査が行えるように心がけています。

動いたりすれば撮影をやり直ししなければならなくなり、診断に適切な画像を提供できません。そのため、出来るだけ緊張を和らげる様に考えています。

X線検査を受けられるときに、「放射線の影響は大丈夫ですか？」と心配される方もみえます。その時は放射線のことをまとめたものを用いて説明させてもらっています。今回はその中から抜粋して説明させていただきます。

私達は普段の生活において自然の放射線を浴びているのをご存知ですか。人体が自然の放射線を浴びる程度は、地域によって異なりますが、年間平均すると約2.4ミリシーベルト (mSv) と言われています。自然放射線には、宇宙からの放射線〔宇宙線〕 (0.36mSv)、大地からの放射線 (0.41mSv)、食物に含まれるものから (0.33mSv)、空気中のラドンなどの吸引 (1.3mSv) などがあります。

人体に影響を及ぼすのは、100ミリシーベルトと言われています。100ミリシーベルト以下ではがんの心配はないそうです。また、妊娠と気づかず、X線検査を受けてしまった場合も、生まれてくる赤ちゃんに奇形があったり、発育が遅かったりするという心配はないそうです。X線の撮影線量については『F. C. R. コンピュータ・ラジオグラフィ』という装置を用いて、X線量を最小量に設定しており、胸部のX線撮影では0.1ミリシーベルトとなっています。2~3メートル離れると、数値は0に近い量のX線となります。

X線の影響を受けやすい生殖腺を保護する為に、鉛防禦板(なまりぼうぎよばん)にてX線を遮蔽(しゃへい)するなど、安心して検査に臨んで頂けるように努めています。

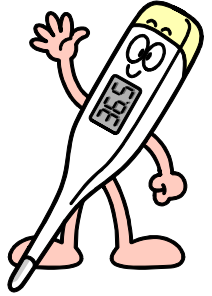
医師は放射線被爆によるリスク(危険)より、病気の診断という利益が勝る時のみX線検査の指示を出します。放射線被爆を気にして、検査を受けなかったりすると、病気の発見が遅れたり、かえって病気を悪化させてしまう怖れがあります。検査や診察方針に何か不安や疑問がありましたら、医師や検査担当者にご相談ください。



日中活動の事業所の紹介 Part2

当センターでは「地域で暮らす障害児(者)の療育支援を因る」ために「地域療育委員会」を設け、地域支援のあり方について検討しています。その一つとして、地域の障害児(者)サービス事業所等を訪問し、地域の情報を集めています。

前号から、重度の障害を持った方が利用されている事業所を訪問し紹介しています。今回は「医療的ケア」が必要な人が通っている事業所を訪問させていただきましたので、紹介させていただきます。



療養通所介護事業所『さくら』訪問記

今回訪問させていただいたのは、名古屋市中川区にある療養通所介護事業所「さくら」です。静かな住宅街にあるアパートの1階部分を利用した事業所です。「療養通所介護」とは、介護保険で利用できる居宅サービスのひとつで、平成18年の介護報酬の改定により「通所介護」の一類型として新たに創設されました。医療ニーズと介護ニーズをあわせ持つ、在宅の中重度の要介護の方に、訪問看護ステーションと協働して専門的なケアを提供する通所サービスとなっています。



「さくら」では、制度ができる前の平成16年に、モデル事業として「療養通所介護事業」を開業したそうです。

「療養通所介護」は制度化されましたが、全国に60箇所ほどしか設置されていないそうです。その内、障害者や小児の受け入れを行っているのは、「さくら」を始め、全国に6箇所しかないとのことでした。

「療養通所介護」の対象者は、難病等を有する重度の要介護者又はがん末期の方で、サービスの提供に当たり、常時看護師による観察が必要な状態の方とのことでした。実際に、IVHをしている方や、人工呼吸器を使用している方が利用していました。「さくら」の利用定員枠は1日5名となっており、介護保険対象の高齢者4名と、重度の小児を1名受け入れています。小児は5名利用していますが、全員呼吸器を使用し

ているそうです。サービスの提供範囲は、移動の安全性を踏まえ、送迎時間が15〜20分程度の方としているとのこと。また、感染症がある方は、利用をお断りしているとのことでした。

「さくら」では療養通所介護計画に基づき、入浴、排泄、食事等の介護、その他の日常生活上の世話、及び機能訓練といったサービスが行われています。そのため、利用者が、難病・障害を持ちながらも、自宅で生活できるように看護・医療の管理を行っています。治療を行う事業所ではないため、医師はいませんが、主治医・訪問看護ステーションと連携をとって利用者の生活を支えています。通所の前日に訪問看護ステーションより看護師が訪問し、利用者の状態によっては、翌日の通所を中止することもあるそうです。事業所の職員は、管理者を含め、看護師4名、介護福祉士1名となっており、場合により、訪問看護ステーションからの応援もあるそうです。

開所時間は、月曜日から金曜日の9時から17時までとなっています。(祝日も開所) サービス利用時間は、自宅にお迎えに到着した時間から、自宅へお送りし、自宅を出た時間までとのこと。お迎えは、8時45分に「さくら」を出発し、2台の車で、行っています。お送り時間は、16時30分から17時頃となっているそうです。

居室は6室(1室は予備室)あり、全て



個室になっています。日中はダイルームで過ごし、オムツ交換や着替え・静養は、全て居室で行い、プライバシーにも配慮されているとのことでした。着替え等の物品も居室のタンスを利用しています。ダイルームにはテレビがあり、訪問した時は、利用者が高校野球を観戦されていました。

「通所」事業所のため、必要な物品は自宅より持参しており、食事の栄養剤や薬は食堂にて保管しているそうです。経管栄養や水分補給の準備・片付けも食堂で行っているとのことでした。

入浴は、一週間に1回となっており、小児は沐浴槽を使用し、大人の方は、ストレッチャー型の入浴槽で入浴されているそうです。利用者と家族の状況により、週に2回入浴を行ったり、訪問看護時に自宅で入浴介助を行うなどの個別対応もされているとのことでした。



管理者の当間さんからお話を伺いましたが、介護保険として高齢者を対象とした「療養通所介護」は制度化されましたが、医療ニーズの高い重度障害者や難病等の小児の受け入れ先はなく、受け入れるための制度もないそうです。重度障害・難病等の小児の保護者は、24時間自宅で看護されています。「さくら」へ週1回通所する日は、唯一自分の時間が持てるそうです。その極わずかな時間を、ご家族は待ちわび、有意義に大切に使われているとのことでした。しかし、「さくら」のような事業所を利用できるご家族は極わずかです。冒頭にも記載しましたが、重度障害・難病等の小児を受け入れる療養通所介護事業所は、全国に6箇所しかありませ

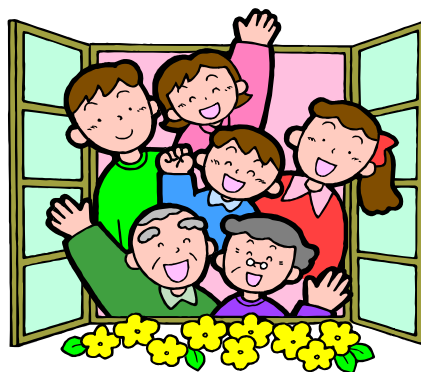
ん。利用を希望されても、利用できない方が多いのが現状です。

今後、このような事業所ができるように、制度改革に向けての働きかけを行っているそうです。そこには、当間さんをはじめスタッフの方の熱意を感じました。

介護保険の制度のもと、「療養通所介護」事業所も全国に6箇所余りしかありません。介護保険の適用される利用者であっても、重度の方が通所できる事業所はあまりにも少ないように感じました。できるかぎり自宅で過ごしたいという利用者を支えるための、事業所が今後も増えていくとよいと感じました。

今回、訪問させていただき、重度障害・難病の小児の受け入れ先が無いという話を聞き、小児だけではなく、地域で生活する障害を持つ多くの家族は、不便を感じ、もっと身近でサービスを受けられることを望まれていると思います。「さくら」でも、週に1回6時間という通所時間では、あまりにも少ないように感じられます。しかし、週1回、25名の方が利用したら、それ以上の受け入れは困難であるのも事実です。もっと気楽に利用できるサービスが生活拠点の近くにあれば、家族の負担は軽減されると感じます。そのためにも、一日でも早く、制度が整い、事業所が増えることを願いたいと思います。

(保育士：山本)



運営主体	医療法人 偕行会
利用定員	1日 5名
開所日	月曜日～金曜日（祝日も開所） 午前9時～午後5時
サービス提供地域	名古屋市中川区 中村区 港区

入所部門

★★重症心身障害児(者)棟 「ひまわり東棟」★★

「ひ東スマイル音楽隊 ～一生懸命～ について」

ひまわり東棟の療育活動に音楽は欠かせなく、利用者さんたちも良い表情を見せてくれることが多くあります。

最近スタッフの中でもピアノの得意な人、昔弾いていたギターを再びよみがえらせた人、エンターテイメントに情熱を燃やす人、ギターばかり弾いている人が集まって音楽隊を結成しました。というのも8月24日の「あおとりまつり」で演奏することで、日頃の利用者さんの病棟生活での楽しさの一部を音楽を通して参加される地域みなさんに感じていただきたいと思いついたからなのです。

個々に地道な練習を重ね、勤務時間外を工面して集まったの練習は自発的で開放感と連携があり、とてもきもちの良いものでした。当日の2階ベランダでもそのままにとっても楽しく、しかも上出来な演奏ができ、それが利用者さんや地域の方々にも伝わったように感じました。そ



の後すぐにメンバーは1階ロビーにて「みちことかおり フューチャリングまや」としてちょっとした漫談まで行いました。

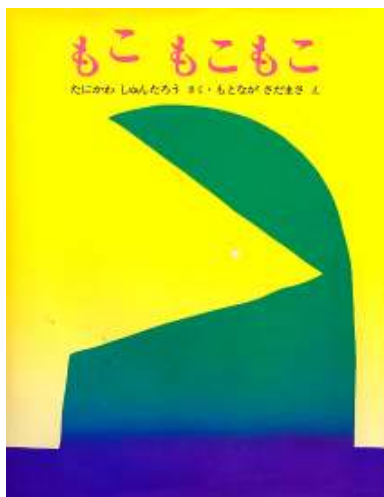
メンバーはこれで終了・解散などという気はさらさらなく、今度の病棟内でのクリスマス会はどうしようかと、とどまることをしらない勢いです。演奏曲目に「ヤッターマンの歌」がありましたが、その歌詞の中にある「エンジブルブル絶好調」のようです。

(ひまわり東棟 坪内)

読書コーナー

『もこもこもこ』 出版社：文研出版

たにかわ しゅんたろう さく もとなが さだまさ え



肢体不自由通園部門 どんぐり園で子ども達に人気のある絵本です。

「ことば」といえば「しーん」「もこ」「ぽろり」「ぎらぎら」と単純なひと言ばかり。

その単純な「ことば」の音に子ども達は引きこまれていきます。その言葉と同じくらいシンプルな絵が「ことば」を表現しています。

子ども達1人ひとりにそれぞれ好きな「ことば」があり、ニヤッと笑う子、次は「どんなのがくるんだろう？」とドキドキしながら待つ子、いろんな子どもの表情があります。とてもシンプルだけど、子ども達の興味をくすぐる不思議な絵本です。

(どんぐり園 山田)

 * 地域自立支援協議会について *
 * パート3 *



「西区障害者地域自立支援協議会」について

名古屋市は各区ごとに自立支援協議会を設置しています。名古屋市は当センターの担当圏域ではありませんが、センターの所在地の協議会ということで「西区障害者地域自立支援協議会」に参加させていただいております。

第1回は平成19年3月に開催されました。協議会の運営を委託されている西区障害者地域生活支援センターをはじめ6つの障害者相談支援事業所と西区役所、西保健所、西区社会福祉協議会という各関係機関が参加しました。まずは「どのような自立支援協議会にするか」という土台を固めていくことから始めることとし、2ヶ月に1回のペースで会議が開かれることとなりました。

19年度は先行している他区の取り組みを聞いたり、参加機関・事業所の情報交換をしたり、それぞれが抱えているニーズを持ち寄ったりしながら、地域の状況や協議会のあり方について協議してきました。

20年度からは他区の協議会の取り組みも参考にしながら、①「ネットワークづくり」②「地域住民への理解」を協議会の柱として、「ガイドブック」の作成や「地域住民向けの講演会」について協議しています。

(地域療育:尺土)



「海部南部圏域障害者地域自立支援協議会」設立記念講演会のお知らせ

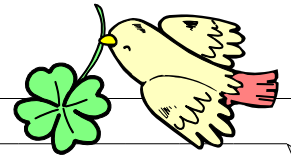
弥富市・蟹江町・飛島村が共同で「海部南部圏域障害者地域自立支援協議会」を設置します。地域自立支援協議会の設立を記念して講演会を行います。どなたでも参加できますので、ぜひお越しください。



講演内容 演題「地域での安心した生活をめざして」
 講師 山田 優 氏 (愛知県障害者相談支援スーパーバイザー)
 日時 平成20年11月12日(水) 開場13:00 開演13:30 (講演時間は約1時間)
 場所 弥富市総合社会教育センター 1階 公民館ホール ※入場無料
 (弥富市前ヶ須町野方802-20)

お問い合わせ先 弥富市役所 福祉課 電話 0567-65-1111(代)
 蟹江町役場 福祉・児童課 電話 0567-95-1111(代)
 飛島村役場 保健福祉課 電話 0567-52-1001





外来診療のご案内

	月	火	水	木	金
午前 9:00 ~ 12:00	リハ科(岡川) 小児科(麻生) 児童精神科 (長谷川)10:00~ 児童精神科(野邑) <第1・3・5> 歯科(平岡)	小児発達外来(安井) 皮膚科(杉浦)	リハ科(岡川) 小児科(麻生) 小児発達外来(安井)	整形外科(栗田) 小児科(鈴木) <第1・3> 小児科(生田) <第2・4> 児童精神科(早川)	整形外科(栗田) 小児科(安井) 児童精神科 (長谷川)10:00~
	児童精神科 (長谷川) 耳鼻科(別府) 歯科(伊藤、平岡) 児童精神科(野邑) 外来新患カフェ 14:00~	小児科・染色体外来 (山中) <第2・4>	リハ科(岡川) 14:00~ 泌尿器科(斎藤) <原則として第2・4> 小児発達外来(安井) 歯科(平岡)	児童精神科(早川) 耳鼻科(別府) 歯科(河合) <第4>	眼科(高井) 14:00~ 小児外科 (小児外科医) <第3> 児童精神科 (長谷川)

○平成20年10月1日現在の外来診療です。

○受診を希望される方は、電話で予約してください。

外来療育相談予定表(10~12月)

	伊藤相談員		大橋相談員	
	午前	午後	午前	午後
10月3日(金)	○	○	10月14日(火)	○
10月24日(金)	○	○	10月21日(火)	○
10月31日(金)	○	/	10月28日(火)	○
11月7日(金)	○	○	11月11日(火)	○
11月14日(月)	○	○	11月18日(火)	○
11月20日(木)	○	○	11月25日(火)	○
11月28日(金)	○	○	12月2日(火)	○
12月4日(木)	○	○	12月16日(火)	○
12月19日(金)	○	○	12月24日(水)	○



担当 伊藤相談員

地区 津島市、弥富市、海部郡(七宝町、甚目寺町、飛島村)、北名古屋市
 その他の市町村(名古屋市以外)

担当 大橋相談員

地区 愛西市、海部郡(美和町、大治町、蟹江町)、清須市、西春日井郡(豊山町、春日町)、名古屋市

ホームページもご覧ください

<http://www009.upp.so-net.ne.jp/aoitori/>

*過去の「のびやか」も掲載されています。